アメリカといってもいろいろ

各州で異なる死刑制度

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

２００１年のいわゆる９・11事件で死刑を求刑されていた被告に仮釈放なしの終身刑が言い渡されました。報道によると、「この裁判で、政府側は死刑評決の可能性の低いニューヨーク州から、死刑を州法で認め、白人の多いバージニア州の連邦地裁に裁判権を移すなど、ムサウィ被告を是が非でも死刑とすることを目標としてきた」そうですが、実行犯でもない被告に共謀罪を適用し死刑を適用することに疑問の声も高まっていました。

☆★☆

アメリカは全体としては執行数からも死刑大国と言えますが、五〇州のうち、すでに一二の州が死刑を廃止しており、存置している州でも死刑制度の見直しが進められているところが少なくありません。

この三月、死刑廃止州であるミシガン州で受刑者の社会復帰支援を行っているＮＧＯ団体の方のお話を聞く機会がありました。死刑制度については次のようなコメントがありました。

☆★☆

「死刑が犯罪を抑止しないことは統計から見ても明らかですし、アメリカ合州国の州の中でも、死刑制度を持っている州の方が凶悪な犯罪の発生率はより高い、という結果も出ています。

またコストが非常に高くつくという問題もあります。死刑事件については誤判が絶対無いようにすべての上訴を必ずしなければならないという仕組みになっているからです。（文献によると、「あらゆる裁判手続きを経て、一つの死刑執行が行われるまでにかかるコストは、ゆうに一〇〇万ドルを超える」）

そういう手続きを経て、死刑の宣告を受けているにもかかわらず無実だったという人がたいへんな人数でいたことが、このかんの調査でわかりました。これまでは、裁判は公正に行われており罪を犯していない人が処刑されるということはないだろうというのが多くの人の考えだったんですけれど、それが揺らいでいます。」

★☆★

ところで、アメリカでは一〇〇年を越すような刑期があるということで、死刑廃止の代わりにそういう刑を導入してはどうかという意見が時おり私たちにも寄せられます。しかし、今回聞いたお話によると、そういう刑の適用実体も州によって異なり、実は、最も死刑が乱発されているテキサス州に多いのだそうです。

日本でも「死刑を残しても、とりあえず〈終身刑〉を導入すれば死刑判決が減るのでは」という提案が国会議員から出されていますが、それは日本のテキサス州化をもたらすにすぎないのではないかという懸念を持たざるを得ません。

★☆★

当初「報復」と言いながら、今や「侵略」としか思えない戦争を次々遂行してきたブッシュ大統領は、テキサス州知事時代に全米一の死刑執行を行ってきました。今は、意にそわぬ国の抹殺を図っているかのようです。

死刑を回避する努力は戦争を回避する努力と一連のものであるようにも思えるのですが、皆さんはいかがでしょうか。